

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービスマスター」 総括表

法人名	(株)クレアメディア	代表者	内田 邦彦	法人・事業所の 特徴	「医療・介護の原点はやさしさ」 上質な医療・介護を提供し、信頼され、選ばれる「さわやか苑」を目指し、地域医療・介護に貢献します。
事業所名	多機能ケアセンター さわやか苑長岡藤沢	管理者	小林 貴道	事業所職員	2人

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	1人	利用者家族	1人	地域包括支援センター	1人	近隣事業所	1人	その他	人	合計	8人
-----	-------	----------	-----------	-----	----	-------	----	------------	----	-------	----	-----	---	----	----

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	<ul style="list-style-type: none"> 個別担当を事前決定し、個別担当職員にて事前情報を基に対応表を作成し、周知する。 個別担当職員は在宅生活がより良くなるよう苑で何をすべきか、ご本人のニーズや自立支援を反映させた対応表を毎月更新、周知し、実施管理を行う。 屋礼ミーティングでは園りの中での気づきを必ず参加全職員が発信する。また、個別担当職員からは担当ご利用者様への取り組みの状況、進捗、ご本人の思いや変化など発信する。発信に対して、園りの職員は関わった中での意見を出し、次のケアに活かす。 外部訪問、送迎ができる職員を増やす。ご自宅の様子や過ごし方を実感し、ケアに活かす。 毎月職員と事業長でのマンツーマンミーティング、月1回の多機能会議にて意見を言い合い、事業所のあり方を共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な関わりは意識せずとも行えている。ミーティング等で情報共有もできている。1週間後の対応表修正は徹底できているため修正していく。 個別担当職員によって差はあるが、気づきの発信は多くなっている。日々の屋礼ミーティングに参加できない職員も多い。(訪問、見守り等) 雑巾縫いが限られた方だけになっているが、できそうな方も多くいられる。 訪問、送迎できる職員も増えて、ご本人の在宅生活がより把握できケアにつながる。 苑でのリハビリを頑張っている様子など写真でお渡しし伝えることで、ご家族様とのコミュニケーションも増えた。ご自宅での生活を把握した中で苑での取り組みを考え、ご自宅で過ごせるよう状態の改善が行えた。 職員とのマンツーマンミーティングを行い、意見などを業務に反映できている。 ヒヤリハットの輩出は多くなくなってはいるが職員によって差がある。屋礼にて共有、検討、改善が行えている。 苑内研修は会議での研修と動画研修にて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの項目で「担当職員による対応の差がある」「取り組み発信など差がある」という評価が奉がっています。それをどのようにサポートして対応を統一していくか、検討する必要がありますと感じました。 計画の内容は詳しく記載されていますが、取組結果は内容が少なく、わかりにくいように思います。できなかつたことについては、その理由を明らかにして、具体的な改善計画になると良いと思います。 利用者ごとスタッフの関係性構築の努力が伝わります。 個別担当の差とはどんなところでしょうか。ケアの知識や技術を誰が担当になっても差がないようにすることが重要ではないでしょうか。 利用者ごとスタッフの関係性は向上していると思いがけない。 一方で地域との関わりとなると、あまりすることがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全員が参加できるカンファレンスを毎月1回行う。今後の対応だけでなく、ご本人の思いや職員の気づき等が出た意見を共有し話し合い、意識を統一する。 翌月のカンファレンスにて振り返り、評価、修正を行う。「ご本人の思い」についても変化など個別担当職員が関わった中で発信、他職員の気づきも共有する。 個別担当職員は在宅生活がより良くなるよう苑で何をすべきか目標設定し、ご本人のニーズや自立支援を反映させた対応表を毎月更新、周知し、実施管理を行う。 毎月職員と事業長(主任)でのマンツーマンミーティング、月1回のカンファレンスにて意見を言い合い、事業所のあり方を共有していく。 認知症・トランス・排泄・入浴の各マスタ職員が毎月チェック項目を作成し、職員全員が自己チェックを行う。できていない項目については個々にマスタ職員が指導を行い、できるようにしていく。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員が職員一人一人の整理整頓、清掃場所を割り振り、毎月10日毎に整理整頓、清掃を行いチェックしていく。担当職員は実施できているか確認していく。 季節を感じて頂ける飾りつけ、作品作り、調理レクをレクリエーションの一環としてご利用者様に作っていただく、飾る事で達成感、喜び等を感じて頂く。写真に撮り、運営推進会議にて見ていただく。または実際に見て頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓、清掃は職員に意識の差がある。 季節を感じていただけの飾りつけ等はご利用者様に楽しんでいただく継続して行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓や清掃を実施してチェックしていることはわかりましたが、その結果が確認できませんでした。事業所内の飾りつけや作品、活動状況については、運営推進会議の際に写真を見せていただき、楽しんでもらえるよう工夫がされていることがわかりました。 運営推進会議がシルバークラブハウスの食堂で開催されているため、小規模多機能のフロアに立ち回る機会がありません。感染症の状況などで難しいかもしれませんが、写真での説明の他、実際に立ち入って見学できる機会があるかとさらに雰囲気が変わると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員が、曜日を決めてその日の業務分担当表に清掃の割り振りを行う。全員が平等に行い、その場で確認、チェックしていく。 季節を感じていただけの飾りつけ作りを継続していく。写真に撮り、広報誌のような枠をあらかじめ作成し、写真を個々に当ててご家族へ配布する。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑巾プロジェクト（雑巾を手縫いし、近隣の保育園、小中学校に寄付するもの）を、できるだけ多くのご利用者様に参加いただき、地域貢献、地域との関りを感じていただく。子供たちへ直接お渡しにご利用者様が参加する。 ・ 地域行事には可能な範囲で参加していく。 ・ 苑全体での広報誌を定期的に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑巾作りは限られた方のみとなり、行う回数も減っていた。できる方を増やし、定期的にしつつ行うことで生活のやりがいがいとなり、定期的に行うとしたら実施やすくなるか考えながら行っていく。 ・ 職員は公園草取り、御膳帯除には参加できた。 ・ 広報誌は作成できていなかったが、ご家族には様子を写真等で定期的にお伝え出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模多機能の存在や事業内容はあまり知られていないように感じますが、さわかや苑の存在自体は地域の方に周知されています。困った時に相談する、いつも親身になって話を聞いてくださいます。広報誌の作成状況が確認できました。 ・ 雑巾プロジェクトを続けることで、利用者や地域とのつながりができ、ご利用者の張り合いにもなると思っています。ぜひ続けていただきたいです。地域の行事には、これからもいろいろな職員が参加できるといいですね。 ・ 広報誌は以前のように回覧板などで周知できると、地域への情報発信、事業所の張り合いにだけにとつながらると思いました。 ・ 地域の学校や保育園等と相談やお願いをし、利用者様が地域の一員としての時間を持てるとうれしいと思います。 ・ 事業所として地域に所在する各家と同様のかかわり（地域の清掃活動など）はできているとしても、利用者・職員が地域とかわかるとなると、そのアクション、評価はむしろ嬉しいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑巾プロジェクト（雑巾を手縫いし、近隣の保育園、小中学校に寄付するもの）を、できるだけ多くのご利用者様に参加いただき、地域貢献、地域との関りを感じていただく。子供たちへ直接お渡しにご利用者様が参加する。 ・ 雑巾作りは針が紛失しないよう目印をつける、糸通しを多く購入し、行いやすい環境を整える。 ・ 雑巾プロジェクトを行うことで、小学生が町探検に来ていただいたとき交流を深めていただくことや、運動会のリハーサルなど見学させていただけるとなるかなかわりを築く、ご利用者様の生活の楽しみにつなげる。
<p>D. 地域に向い本人の暮らしを支える取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別担当職員が担当ご利用者様の生活歴を把握していく中で、その方にとつての地域資源を知る。また、どこどこに行けるように歩く練習も頑張りますようかなど、より良い生活への意欲を持っていただき、ケアにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を考える、知る機会を作れなかった。 ・ 個別ケアで外出等ができたが、限られた方のみだったため、全員の希望を伺い実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症が5類となり、生活の規制も緩和されてきていますが、一方で他の感染症の流行もあり、気候に外出ということも、まだ難しいように思いますが、できる範囲での取り組みをお願いします。 ・ 個々のニーズや社会資源を把握し、目標の達成に向けて個別ケアを行っていることがわかりました。感染症の状況を見ながら、ぜひご利用者にも地域の行事やイベントに参加していただきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外出レク、ドライブなど外に出る機会を定期的に設けていく。ご本人に伺い、行きたい場所にお連れする。 ・ 雑巾プロジェクトで地域と関わる。 ・ 毎月1回のカンパニアアレンスは、その方にとっての地域資源とは何か話し合う。
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営推進会議では毎回、サービス評価項目A～Fについての進捗状況を報告し、意見をいただき改善していく。期日を厳守した回答を行っていく。 ・ 運営推進会議は対面での開催を行い、実際に見ていただく。書面での開催となつた場合は、必ず写真を提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議にて状況をお伝えすることができた。対面にてその場で貴重な意見をいただくことができた。実際の業務やケアに活かしていくことが必要。 ・ 運営推進会議自体を職員全員が理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の写真や事例の紹介などを通じ、事業所の取り組みを理解することができました。報告だけでなく、ご利用者への対応に迷った時などにこの会議の場を活用してケース検討を行うのも良いのではないかと思います。 ・ サービス評価総括表の項目に沿って進捗状況の報告があり、書面に比べてタイムリーな意見交換ができるようになりました。 ・ 現場の職員の感想やご意見を運営推進会議の中でお聞きしてみたいです。 ・ 職員も何らかの形で会議に参加できると良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回現場職員が1名参加できるようにしていく。外部の評価を聞くことでやりがいやケアに活かしていく。 ・ 事例検討実施を検討していきたい。 ・ 事業所を実際に見ていただく機会を設けていく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練担当メンバーにて定期的に会議を行い、避難訓練を実施する。訓練の為の訓練ではなく、実際に起きた場合に全職員が自分の役割を認識し、すぐ動けるようなマニュアル（火災、水害等）を作成、修正し、理解を深めていく。 ・ 訓練実施の際は当日参加職員だけでなく、初動等の動きを職員全員で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練を確実に実施し、職員の理解を深めることができた。反省点を活かし、成熟させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練に外部からの参加があると、より緊張感を持って訓練ができ、職員の視点では気づきにくい改善点も見えてくるのではないかと感じました。 ・ 通い、訪問、宿泊などのサービス利用中に災害は発生するかわからないですし、発生する災害の種類によって対応が違いため、マニュアル作成や訓練は、大変なことだと思えますが、ご利用者や職員を守るためにも、現実的に活用できるものになってほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の反省点を改善した訓練を行う。 ・ 当日参加職員が偏らないようにしていく。 ・ ご家族への連絡、同居の方の確認なども多機能として取り決めを行っていく。